

5 算数・数学科経営の質を高める

<テーマ>学年の実態に合わせた既習事項の掲示の取組（東松島市立大塩小学校）

【ねらいと特色】

学力向上に向けて、指導方法や教材を工夫する4つの視点を設定し全校で取り組んできた。4つの視点のうちの2つ「目的意識をもち『やってみたい』『解決したい』という主体性、意欲を引き出す課題設定の工夫」と「数理的な表現を適切に用いた自力解決を引き出す工夫」では、既習事項の活用が深く関わる。そこでよりよく活用させるために、各学級で児童の実態に合わせた既習事項の掲示を行った。これらの『既習事項の掲示』を活用することで、児童の主体的な課題意識を引き出したり、自力解決への見通しをもたせたりする上で効果的であった。

【実践の概要】

1年生

2年生

3年生

1, 2, 3年生はポイントを大きく書き、自力解決の際のヒントとして活用できるよう工夫した。

4年生は、ポイントをまとめた算数通信を発行し掲示した。

4年生

5年生

6年生は、自力解決の際に児童が書いたものを使って掲示した。授業の際に使用したもので、授業場面を思い出すのに有効だった。

5年生は、単元ごとのポイントを順に掲示し、4月から振り返られるようにした。

6年生